

# I

## 日本史

問題は、次のページから始まり、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴの5題ある。

解答は、問題ごとに与えられた指示にしたがって、それぞれ答案紙の所定の欄に書きなさい。

## 日本史 問題 I

下の図は、近代中国などをモデルにした手塚治虫の漫画『一輝まんだら』の一ページである。この状況が描かれる歴史的背景とその後の経過を、漫画の人物たちのセリフも参考にしながら、以下の語句をすべて用いて、350字以内で述べなさい。(語句の順序は自由に変えてよい、語句には下線を引くこと)

日清戦争 扶清滅洋 アヘン戦争 北京議定書(辛丑和約) 植民地

この部分につきましては、  
著作権の都合により公開いたしません。

## 日本史 問題Ⅱ

古代における対外交流に関する次の文章を読んで、以下の問いに答えよ。(史料は原漢文。一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)

日本列島の人々は、様々な場面で、中国大陸や朝鮮半島の人々と交流を行っていたが、政治組織が成熟するにつれ、国同士の交渉も行われるようになった。古くは中国の楽浪郡や帯方郡を通じて倭人が朝貢したことが知られるが、5世紀を中心にさかん<sup>①</sup>に交渉を行ったのがいわゆる倭の五王であった。7世紀になると、<sup>②</sup>隋との交渉がはじ<sup>③</sup>まり、次いで唐との間でも使者の派遣が続けられた。

一方、東アジアにおける国際関係は、中国の王朝と倭(日本)の二国間だけで完結するものではない。朝鮮半島諸国も含めた相互関係<sup>④</sup>の中で理解する必要がある。

問 1 下線部①について、帯方郡を通して中国へと朝貢した倭国王の擁立経緯について、その前後の倭国内の政治動向を踏まえつつ述べよ。

問 2 下線部②に関連する史料1および下線部③に関連する史料2を参考にして、5世紀における倭の対外政策の目的が何であったか、また、7世紀以降はどのような点が異なるか、述べよ。

### 史料1 『宋書』倭国伝

興死して弟武立つ。(中略)順帝の昇明二(478)年使を遣して上表して曰く、「(上表文の内容省略)」と。詔して、武を使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事安東大將軍倭王に除す。

史料2 『隋書』倭国伝

大業三(607)年、其の王多利思比孤、使を遣して朝貢す。(中略)其の国書に曰く、「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す。つつがなきや、云々」と。帝、これを覽てよろこばず、鴻臚卿に謂ひて曰く、「蛮夷の書、無礼なるあらば、また以て聞するなかれ」と。

問3 下線部④に関連する史料3～5を参考にして、8世紀における唐・日本・新羅および渤海の相互関係について述べよ。

史料3 『続日本紀』天平15(743)年4月甲午条(現代語に抄訳)

新羅使受け入れの担当者が次のように報告した。「新羅の使者は『調(服属国の貢納物を示す)』を改めて『土毛(その土地の産物)』と言い、文書にただ物の数を記すのみである。旧例を検討すると、大いに常の礼を失している」と。これを受けて太政官は次のように指示した。「新羅の使者を召して、礼を失していることを告げ、すぐにしりぞけよ」と。

史料4 『続日本紀』天平勝宝6(754)年正月丙寅条(現代語に抄訳)

遣唐副使が帰国し、次のように天皇に報告した。「唐の天宝十二(753)年正月一日に、百官・諸蕃が朝賀した。玄宗皇帝は蓬萊宮含元殿で拝礼を受けた。その際、日本の遣唐使の序列が新羅の使者より下位となっていた。これに対し自分は、『古来、新羅は日本国に朝貢してきた国である。しかし、今、新羅の方が上位で、日本が下位となっている。これは義にかなっていない』と主張した。唐の担当者は、これを受けて、新羅の使者と日本の使者の序列を入れ替えた」と。

史料5 『続日本紀』神亀5(728)年正月庚子条(現代語に抄訳)

天皇が大極殿に出御した。王臣・百寮と渤海使らが朝賀した。

## 日本史 問題Ⅲ

中世の東北・北陸・関東地方に関する次の文章A～Cをよみ、以下の問いに答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)

A 鎌倉時代の終わりのころ、現在の埼玉県域を本拠とした小代氏という鎌倉幕府の御家人は、京都の蓮華王院の宝物であった後三年合戦絵巻に先祖の姿が描かれていると知った。当時の人物画は、偉大な能力を示した人物を描き、その子孫の「血統」の優秀さを証するものでもあったという学説がある。実は小代氏は、この絵巻で先祖の名前が改ざんされていると聞き、天皇・上皇に申し上げて復旧すべきと主張している。小代氏や改ざん者は、いわば「最高の血統」を誇る天皇から、絵図の先祖を認められることに大きな価値を見出していたかのようである。

B 室町時代のなかごろ、現在の福井県域である若狭国の小浜で、羽賀寺という寺が火災にみまわれた。そこで、寺をどのように再建するかが話し合われたとき、関係する商人たちは、「奥州十三湊の安倍康季は、文武ともにすぐれた人物で、仏教を厚く信仰し、忠義を大切にし、名誉を重んじる者です」と提案し、安倍氏の協力を期待したという。室町時代の東北地方に関する貴重な記録である。

C フランシスコ・ザビエルは、日本の都を遠く離れた「坂東」の地に、日本で最も有名な「大学」があると記録している。京都の貴族で学者でもあった清原宣賢(生没1475 - 1550)は、「関東の学士」たちの典籍の訓点の清濁は、正規のものと異なると指摘している。典籍の音読の仕方に強い癖があったらしい。清原のいう「関東の学士」は、おそらくザビエルのいう「坂東の大学」の関係者であろうが、この「大学」が海外にも知られるほどに発展できた理由のひとつは、清原の指摘によるなら、地域の暮らしに深くなじんでいた ア を用いていたからと考えることもできよう。

問 1 下線部①の絵巻は、写しが現存し多くの人物画を含むが、とりわけ(a)小代氏の先祖らを率いた誰(人名)の、(b)どのようなことを成し遂げた能力が示され、(c)どのような人物に示されようとしていたのか、記述せよ。なお最後の(c)は、下線部①の絵巻が保管されていた場所が、もとは誰のために創建され、そこにあった宝物は、どのような地位にある人々に受け継がれていたかを念頭に考察せよ。

問 2 下線部②の史料について、(a)「十三湊」のよみかたをひらがなで示せ。また、(b)「十三湊」は現在の都道府県名でどこに所在し、(c)どのような出土遺物で特徴づけられ、(d)若狭国の小浜とはどのような関係にあったと推測されるか、文章Bも参考にしながら答えよ。

問 3 下線部③について、この「大学」の一般的な名称を答えよ。また、空欄  ア  にあてはまる語を、文章Cでは用いられていない一般的な語に言い換えて提案せよ。

問 4 下線部③の「地域の暮らし」に関連して、近世後期のこととなるが、山東京伝の弟が出版に協力した越後の人の有名な随筆がある。下記はその一節で、空欄  イ  には、すべて同一の語があてはまる。この空欄にあてはまる語を含む随筆名と、作者名とを述べよ。また、山東京伝について知るところを述べよ。

風雅をもつて我国に遊ぶ人、  イ  中を避て三夏の頃此地を踏ゆゑ、越路の  イ  をしらず。然るに越路の  イ  を言の葉に<sup>つくる</sup>作意ゆゑたがふ事ありて、我国の心には笑ふべきが多し。

## 日本史 問題Ⅳ

近世から近代における蝦夷地(北海道)とアイヌに関する次の文章を読んで、以下の問いに答えよ。

15世紀の争乱を制した蠣崎氏は道南の支配者として成長し、慶広の時代に豊臣秀吉、徳川家康の天下人から蝦夷地の支配とアイヌ交易の独占権を認められ、松前氏と改称した。松前氏を藩主とする松前藩では、蝦夷地の特定地域<sup>①</sup>におけるアイヌとの交易権を知行として家臣に与えたが、18世紀前半には和人商人に特定地域における交易や漁場経営を請け負わせ、運上金を上納させるようになっていった。<sup>②</sup>

ロシアが南下政策により蝦夷地に接近しはじめると、松前藩の蝦夷地支配が問題視されるようになり、幕府の蝦夷地政策は転換していった。老中田沼意次は、工藤平助の意見書を取り入れ、はじめて蝦夷地へ調査隊を派遣した。19世紀に入ると北辺防備<sup>③</sup>のため幕府は松前藩を所替えし、蝦夷地をすべて直轄地とした。

明治維新後、新政府は蝦夷地を北海道と改称し、北海道の開発・経営拠点として開拓使を置き、道内各所に支庁を設置したが、樺太支庁は1875(明治8)年に廃止された。<sup>④</sup>開拓使はアメリカから顧問を招いて開発事業を進めたが、その一方で同化政策によりアイヌの生活基盤や文化は失われていった。<sup>⑤</sup>

問 1 下線部①の特定地域は何と呼ばれたか、答えよ。

問 2 下線部②の制度を何と称しているか。また、下線部②の段階になりアイヌの立場はどのように変わっていったか、説明せよ。

問 3 下線部③について、工藤が著した意見書の書名(別名でも可)を答えよ。また、工藤の献策を受け入れて実施された蝦夷地調査の目的について説明せよ。

問 4 下線部④について、樺太支庁がこのとき廃止された理由について説明せよ。

問 5 下線部⑤について、政府は貧窮化したアイヌの保護を名目に 1899(明治 32)年に法律 A を制定したが、この法律も同化政策を進めるものであったためアイヌ新法の制定が求められ、1997(平成 9)年に法律 B が制定されて法律 A は廃止となった。現在はアイヌを先住民族と明記したアイヌ施策推進法が施行されている。法律 A・B の名称を答えよ。

## 日本史 問題V

近現代日本の女性の運動に関する次の文章を読み、以下の問いに答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)

青鞥社を起こして女性解放運動を展開していた  は、<sup>①</sup>市川房枝とともに1920年に新婦人協会を設立する。この協会は、女性の政治結社や政治集会を禁止した治安警察法第5条の撤廃などを掲げて運動を展開した。

一方で、 とかねてから母性保護論争を繰りひろげていた文学者でもあった  は、新婦人協会の活動方針を批判した。さらに、関東大震災の混乱中に大杉栄とともに憲兵に殺害された  は社会主義の立場から赤瀾会を結成するが、赤瀾会の山川菊栄は新婦人協会を「ブルジョア婦人の慈善道楽」と述べて、そのあり方をも否定している。女性たちの運動も一枚岩ではなかった。

アジア・太平洋戦争の敗戦後、山川は日本社会党に入党し、片山哲内閣では新設された労働省の初代婦人少年局長に就任し、公務員役職者への女性の登用を進めた。<sup>②</sup> また、市川は参議院議員となり、女性の政治参加をリードした。

問1 空欄  ～  の人物名を記せ。

問 2 下線部①の市川房枝はアジア・太平洋戦争中の 1943 年、以下のような主張を展開していた。この時の市川の主張を説明しつつ、なぜ彼女はこのような意見を述べたのかについて、大正期から昭和戦前期の彼女の動向を踏まえながら論じよ。

この部分につきましては、  
著作権の都合により公開いたしません。

(『戦時婦人読本』)

注 1：大東亜戦…アジア・太平洋戦争

注 2：支那事変…日中戦争

問 3 下線部②にもかかわらず、戦後の女性の労働は不安定であり続けた。下のグラフは、戦前と戦後のある年の日本における女性の年齢別の労働力人口の割合(縦軸%)を示したものである。なお、戦後のある年齢からの雇用の多くは正社員ではなくパートだと考えられる。

- (1) このグラフから読み取れる戦前と戦後の 20 代女性の働き方の違いとその理由について述べよ。
- (2) なぜ戦前と戦後でこのグラフのような変化が生まれるようになったのか。社会や雇用形態のあり方の変化から説明せよ。

この部分につきましては、  
著作権の都合により公開いたしません。

(落合恵美子『21 世紀家族へ』から一部引用)